

住みよいまちづくり情報誌

Vol.42

平成28年9月1日

発行 住みよいまちづくり新莊会
 (水戸市新莊市民センター内)
 (〒310-0036) 水戸市新莊2-11-2
 Tel.029-221-7851
 責任者 住みよいまちづくり新莊会
 会長 川又 一郎
 編集 新莊会広報部
 印刷 常磐総合印刷株式会社
 題字・坂 俊治

新莊学区の常住人口 世帯数 3,026

男 2,853 女 3,171 合計 6,024 (平成28年7月1日現在)

年齢別人口

0 ~ 14 才 524 (8.7%)

15 ~ 64 才 3,488 (57.9%)

65 才以上 2,012 (33.4%)

(平成28年7月1日現在)



一年生紹介

7月24日(日)、新莊小学校校庭で開催された新莊夏まつりは、涼しく晴れた天候(開催時間の平均気温24度)に恵まれ、予定の催しものも全て行うことができました。

開会式、1年生紹介、21店からなる模擬店、ゲームコーナーのほか、管楽合奏、大神楽、チア・ダンス、サッカー、よさこい連、国体踊り、はまゆう会民舞、プチハモ及びフィナーレ花火の順に15:30から19:30まで行われ、約2,400人の参加者は夏まつりを思う存分楽しみ親睦を深めました。



主催者及び来賓の皆様



意気の合った新莊小管楽合奏(上)と水商チア・ダンス(下)



賑わった夕暮れのまつり会場



食を満たした焼きそば店

息をのむ
大神楽の演技

みんなで覚えよう国体踊り



キックターゲットでシュート力アップ



元気一杯の水戸城東YOSAKOI連の演舞



オセロ大会に向け頑張ります



精一杯の至近射撃



バザーコーナー、市長毎度あり



日が落ちて見えなくても演奏しました



フィナーレの花火



華やかなはまゆう会の踊り

第四十二回水戸のあじさいまつり 「新莊地区女性の会がおもてなし」

初夏を彩る「水戸のあじさいまつり」が保和苑において六月十二日から七月三日の二十二日間開催され、県内外から十万人を超える観光客が訪れました。

特に千葉方面からの団体客が多いのが特長で、バス専用駐車場には二百台を超えるツアーバスで混雑しました。

さて、主役であるあじさいは春先の雨不足で花は小さいですが数多く咲きました。

一日五千人弱が訪れる来園者におもてなしでお迎えするため、地元の女性会が湯茶の接待等を行っております。今年は更に新莊女性の会（十一の支部）が当番制でもてなしを行いました。

保和苑のあじさいは、昭和三十五年ごろから植込みを始め、現在百種六千株が日本庭園を中心に色とりどりに咲き競います。

来園者の反応は、予想に反し「うー、キレイ」と驚嘆の声を上げておりました。

一方、鎌倉のあじさいを見てこちらに来たご夫婦は、保和苑の方がずっとスバラシイとの声もありました。

花が終わり来年に向けて剪定作業を実施するなど、今後六千株に心をかけて管理していきま

す。ご期待下さい。（あじさいまつり実行委員会 川又）



あじさいまつり実行委員会、女性の会の皆さん

平成二十八年 合同総会

五月十四日(土) 新莊市民センターにおいて、住みよいまちづくり新莊会と社会福祉協議会新莊支部の合同総会が開催されました。



高橋市長あいさつ

新莊地区六十九町内会のうち六十一町内会長の出席(参加者数二二〇人)をいただき、二十七年年度の事業報告と決算報告及び二十八年度の事業報告と予算が承認されました。役員は住みよいまちづくり新莊会の改選がありました。

開会のあと、市民憲章唱和、水戸市歌斉唱、川又会長主催者あいさつに続き、来賓として高橋市長などよりごあいさつをいただきました。また、合同総会後、水戸市スポーツ課から十月三十日(日)に行われる「第一回水戸黄門漫遊マラソン」開催に伴う協力依頼の説明がありました。住みよいまちづくり新莊会の新役員は次のとおりです。

- 顧問……奥田 俊亮
- 会長……川又 一郎
- 総務自治部長(事務局長)……田口 允彦
- 広報部長……川又 健志
- スポーツ・レクリエーション部長……山部 正彦
- 生活環境部長……飛田美江子
- 福祉厚生部長……青木 實
- 防災委員会委員長……森本 久夫
- 監事……川上 利通
- 監事……湊 弘一郎



住みよいまちづくり新莊会総会審議の様子

来賓

水戸市長……高橋 靖様
水戸市議会議員……袴塚 孝雄様
水戸市社会福祉協議会常務理事……秋葉 欣二様
新莊市民センター所長……斎藤 雅子様



女性の会 支部長紹介

今年度の主な行事

- ◆ 新莊夏まつり 七月二十四日 回
- ◆ 敬老会 九月十九日 回
- ◆ ユニカール大会 九月二十五日 回
- ◆ 市民運動会 十月九日 回
- ◆ 歩く会 十一月十三日 回
- ◆ 新莊ふれあいまつり 三月五日 回

水戸黄門漫遊マラソンを応援しよう

十月三十日(日)、日本陸連公認のフルマラソンが水戸で開催されます。私たちの新莊地区を通過しますので、全国から参加されたランナーにエールを届けましょう。地区として次の場所を応援区域といたしますので、多くの方々の参加をお待ち申し上げます。

一・応援場所

大工町旧フクダヤ前→神応寺前→雷神宮前

二・応援時間

イ・フルマラソン

午前九時二分頃から(一万人が千波湖方面へ)

ロ・五キロメートル

午前九時三十二分頃から(二千人が千波湖方面へ)

午前九時四十分頃から(千波湖を折返し南町へ)

ハ・二キロメートル

南町をスタートし、大工町吉田石油前折り返し

午前十時三十分(吉田石油前を千人が折り返し)

三・ゲストラナー

(全面通行止)

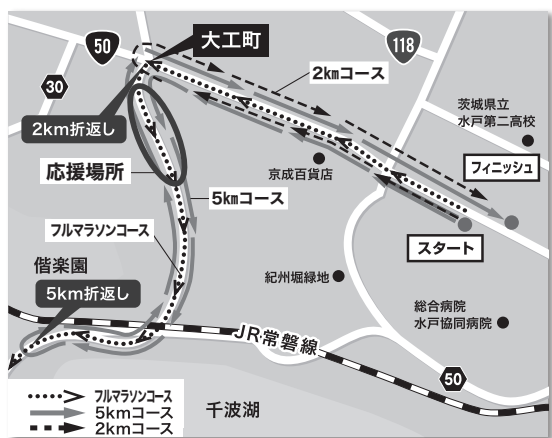
新莊地区

大工町

偕楽園下

八時三十分

十時三十分



新莊散策

真宗大谷派三縁山浄安寺

第二十三代住職 星野 暁

さとし



屋根の葺き替えを終えた本堂

緑町にある浄安寺を紹介します。この寺院は五十号線の東原方面大工町三丁目バス停手前から路地に入ってすぐ近くにありま

浄安寺は、浄土真宗大谷派の寺院で、山号は三縁山と号します。浄安寺の開基は証安上人（俗名は八田六良朝安）と伝わります。

浄安寺の元となる寺院は天台宗であり、証安上人は、真宗に帰依する前、その寺院の住職をしておりました。

浄土真宗の祖師である親鸞聖人は稲田（笠間市）を中心に約二十年滞在され、真宗教団の原型が茨城の地に誕生しました。

証安上人が健保六年（一二一八）四月、二八歳の時、稲田の草庵に親鸞を訪ね、南無阿弥陀仏の教えを聞き、感激して真宗の教えに帰依したと伝わります。

その後、弘安二年（一二七九）、第二世の浄信の時に現在の浄安寺という寺号に改めたといわれています。歴史書によると、浄安寺は寛永四年（一六三三）に京都の東本願寺（真宗大谷派本山）から木像の阿弥陀如来のご本尊を受け、本山が浄安寺を末寺として認めたと書かれております。

浄安寺は、幾度か移転していましたが、唯報の時代、元禄五年（一六九二）七月に光圀公の命によって現在の地に移りました。その後、光圀公の時代から始まる水戸藩内の寺院整理施策により、天保十四年（一八四三）に斉昭公の命によって廃院になりましたが、水戸藩の勢力が弱くなった幕末に浄安寺は復帰しました。

戦前までは五十号線沿いに、室町時代に建てられたと伝わる山門がありましたが、昭和二十年の水戸大空襲によりその殆どは焼失し、現在、当時の山門は象鼻（建物の装飾）等の一部が寺院内に残してあります。

浄安寺の本堂は約百年前に建立された古い建物で、水戸大空襲では幸い被害を受けませんでした。

した。しかし、東日本大震災等で大きな被害を受け、現在、長期に渡る修復修繕工事が進められており、昨年九月本堂の屋根の葺き替え工事を終えたところです。

この本堂には、五百年ほど経つと推測されている聖徳太子等の掛け軸の二幅が安置してあります。

また、「木折観音」と呼ばれる小さく素朴な観音様の古い木像が、寺院内にあります。戦前まで境内に観音堂があり、地域の人々に大切にされていて、年に一度、地域の行事として観音様のお祭りがあったといえます。この地の旧町名を「木折町」といいますが、この観音様が由来であるかと推定されております。

浄安寺では、過去廃院になったこともあり今まで古い文書が行方不明でしたが、今回の修復修繕工事中、かなり古い八幅の御軸などが発見され、現在、修復されております。



木折観音像



聖徳太子掛け軸

花壇コンクール

水戸市住みよいまちづくり推進協議会が主催する花だんコンクール審査が七月十三日・十四日の二日間実施され、一〇六花壇中五〇花壇が入賞しました。新莊地区からは、町内会の部門で

砂久保花の会が、職域の部門において吉田石油水戸SSが、共に優良賞に入賞しました。

表彰式は八月二十六日、県立青少年会館において行われました。



新莊会地区の事前審査の様子 (6/27)



砂久保花の会 (6/29撮影)



吉田石油水戸SS (6/29撮影)

花壇審査対象

- ・砂久保花の会
- ・馬口労町1丁目
- ・緑町会
- ・榊吉田石油水戸SS
- ・栄町1丁目
- ・新莊小学校



新莊市民センター

新任あいさつ



所長 齋藤 雅子



津田 恵子

今年四月から初めての市民センター勤務となりました。地域の皆様に温かく迎え入れていただき、大変感謝しております。

地域コミュニティ活動、生涯学習活動の拠点として皆様に親しまれる市民センターとなるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今年四月から新規採用となりました。地域の皆様のお力になれるよう頑張ります。

よろしくお願いいたします。

編集部委員

川又健志・塩井雅子・神尾和子